

区分	普及	題名	収量が多く春・初夏播きに適するほうれんそう品種「プリウス」	
[要約]「プリウス」は、4月中旬～6月下旬播種作型において、安定多収が期待できる。				
キーワード	ほうれんそう	多収	プリウス	県北農業研究所 産地育成研究室

1 背景とねらい

本県のほうれんそう生産は、鮮度保持の徹底と剣葉系品種の長期継続出荷によって高い市場評価を得ている。しかし、夏期の出荷量が安定しないことが販売上の問題となっている。また、調製機の導入や大型経営体の育成に伴う経営改善の観点から、単収向上が栽培上の課題となっている。

そこで、夏どり作型の有望品種の選定を行ってきたところ、「プリウス」は4月中旬～6月下旬播種作型において安定して多収を示すことから、その特性を紹介する。

2 成果の内容

(1) 来歴

「西洋系」×「東洋系」のF1品種。トキタ種苗株式会社が平成10年に発表。

(2) 特性概要

ア 収穫までの生育日数は、「アクティブ」より2～3日程度長くかかる(表1)。

イ 葉数が増えやすく、1株当たり調製重は「アクティブ」より重い(表1、図1)。

ウ 晩抽性は「アクティブ」よりやや劣る(表2)。

エ 葉形はやや浅く切れ込みの入る中間葉で、草姿は立性である。葉色は「アクティブ」より濃い。食味は「アクティブ」と同程度である(表2、5)。

オ ベと病レース1～5に抵抗性を有する。

3 成果活用上の留意事項

(1) 6月播種では抽だいが発生しやすいが、可販収量は「アクティブ」より多い(表1、2、図1)。

(2) 低温期には生育が遅く、4月中旬の播種では年により生育日数が長くかかるため、無理な早播きは避ける。また生育後半が低温期にかかる7月下旬以降の播種は避ける(表1)。

(3) 萎ちょう病の抵抗性は「アクティブ」より弱いと思われるので、病害の発生しやすい7月の播種と、萎ちょう病発生圃場での播種は避ける(表3、4)。

(4) 本品種はべと病レース1～5に抵抗性を有するが、県内で罹病事例が見られるので、発生が見られた場合、早期に薬剤防除を徹底する。

4 成果の活用方法等

(1) 適応地帯又は対象者等

ア 適応地帯 県下全域

イ 適応作型 4月中旬～6月下旬播種作型

ウ 対象者 雨よけほうれんそう農家

(2) 期待する活用効果

ア 多収性の品種を作付けすることで、単収が向上し夏期出荷の安定と農家所得の向上が期待される。

イ 普及見込み面積 100ha

5 当該事項に係る試験研究課題

(880) 地域適応性に優れた品種の選定(H14～H16、県単)

(1000) ほうれんそうの品種選定(H14～H16、県単)

6 参考資料・文献

7 試験成績の概要(具体的なデータ)

表1 収穫時の生育(軽米 県北農業研究所)

播種期	品種名	収穫日 (月日)	調製重 (g)	葉数 (枚)	草丈 (cm)	可販収量 (kg/a)	
H12	アクティブ	4/17	17.9	12.9	25.5	186.8	
		5/22	22.5	14.3	25.2	234.3	
	プリウス	5/15	24.1	14.3	24.8	237.9	
		6/18	33.4	16.9	24.7	292.1	
	アクティブ	6/15	19.3	12.9	24.5	140.6	
		7/17	26.4	14.9	25.0	191.8	
H13	アクティブ	4/16	19.3	10.8	25.0	200.7	
		5/22	26.7	14.2	24.7	278.0	
	プリウス	5/15	17.8	9.4	24.9	130.4	
		6/11	20.2	10.3	24.3	210.2	
	アクティブ	7/16	13.8	9.7	24.7	143.5	
		8/13	19.7	10.6	24.5	204.9	
H14	アクティブ	4/16	23.8	13.9	26.6	247.6	
		5/29	37.7	22.4	25.9	393.0	
	プリウス	5/15	21.5	10.9	26.7	224.3	
		6/15	26.1	13.8	26.7	272.3	
	アクティブ	6/14	16.5	11.2	26.4	120.1	
		7/15	22.7	14.5	26.6	177.4	
	アクティブ	7/15	18.5	12.0	26.6	192.3	
		8/13	31.3	14.9	26.4	326.1	
	アトランタ	アトランタ	8/13	15.3	10.9	27.3	159.2
			ミストラル	9/9	13.9	10.0	27.1
		イーハートブ	9/9	15.2	10.4	26.6	158.5
			アクティブ	9/9	14.4	10.2	26.9
		プリウス	9/17	26.7	15.6	25.6	277.9

注) 収穫調査はほうれんそうの草丈が県出荷規格に達したときに行った。
(平成12~13年度は24~26cm、平成14年度は25~28cm)

表2 草姿と抽だい性(軽米 県北農業研究所)

播種期	品種名	草姿注1) 程度	葉色注2) (SPAD)	抽だい株割合(%)		
				2cm以内	2cm以上	
H12	アクティブ	4/17	4.5	29.6	0	0
		プリウス	4.0	32.9	0	0
	アクティブ	5/15	-	36.4	25	20
		プリウス	-	40.0	50	30
	アクティブ	6/15	4.5	35.5	25	40
		プリウス	4.5	35.2	20	55
H13	アクティブ	4/16	3.0	39.2	0	0
		プリウス	3.0	40.0	0	0
	アクティブ	5/15	4.0	32.8	55	0
		プリウス	4.0	34.8	65	0
H14	アクティブ	4/16	4.0	35.4	5	0
		プリウス	4.0	42.8	5	0
	4/24	プリウス	-	39.2	0	0
	5/2	プリウス	-	40.1	10	0
	アクティブ	5/15	4.0	35.2	0	0
		プリウス	4.0	37.6	35	5
	5/24	プリウス	-	-	45	0
	6/5	プリウス	-	-	45	35
	アクティブ	6/14	-	28.9	65	35
		プリウス	-	30.9	55	45
6/25	プリウス	-	-	70	0	
7/2	プリウス	4.0	35.0	100	0	

注1)草姿: 1(開帳性)~5(立性)

注2)葉色: 葉緑素計 SPAD502 示度。数字が大きいほど葉色が濃いことを示す。

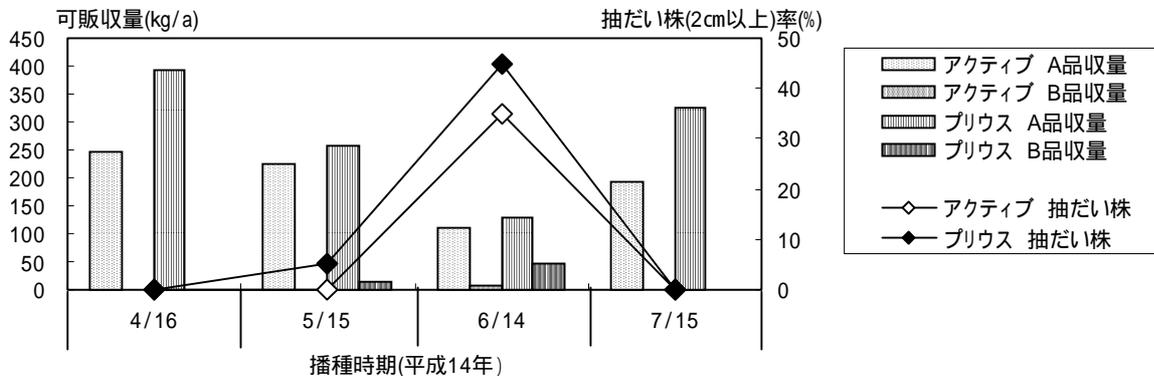


図1 収量性と抽だい株率の比較

表3 現地品種比較圃場における「プリウス」の評価(平成14年 普及センター調べ)

設置場所	「プリウス」の評価
葛巻町	抽だい性・収量性で最も有望。 丸葉に近い中間葉で葉色が薄い。
宮守村	株がしっかりしていて作業性良好。 高温障害・土壌病害(萎ちょう病)に弱く残存率が低い。
久慈市	収量性は最も優れる。萎ちょう病が若干発生。
軽米町	調製重は最も重い。葉が開いて収穫作業性が若干悪い。 低温期の生育遅い。

注) 6/下~7/上播種作型での評価。

表4 セルトレイにおける萎ちょう病検定試験(軽米 県北農業研究所)

	発病指数注1)				検定数 (個体)	発病度注2) (%)
	0	1	3	4		
アクティブ	0	32	49	0	81	55.2
プリウス	0	1	84	0	85	74.4

播種:平成14年8月1日 接種:8月11日 調査:9月4日

注1)発病指数: 0:健全、1:軽微な萎ちょう症状、3:重度の萎ちょう症状、4:枯死

注2)発病度: 発病度 = (4A + 3B + C) / 4n × 100

: A: 枯死株数、B: 重度の萎ちょう株数、C: 軽度の萎ちょう株数、n: 全株数

表5 食味官能調査(軽米 県北農業研究所)

品種名	香り	味	歯切れ	総合	備考
プリウス	-0.158	0.000	0.421**	-0.211	基準:アクティブ パネラー数:19 H14.8.23 AM12:00

注)**は1%水準で有意であることを示す。

方法)沸騰した湯に30秒浸けた後、冷水で2秒冷やしたほうれんそうを供試。